

SHOW HEY シネマルーム

★★★

エタニティ 永遠の花たちへ

2016年・フランス、ベルギー映画
配給/キノ・フィルムズ、木下グループ・115分

2017 (平成29) 年 10 月 7 日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督：トラン・アン・ユン

出演：オドレイ・トトゥ/ベレニス・ベジョ/メラニー・ロラン/ジェレミー・レニエ/ピエール・ドゥラドンシャン

■ ■ ショートコメント ■ ■

◆私は『ノルウェイの森』（10年）を見て、ベトナム出身のトラン監督をはじめで知ったが、同作の出来はイマイチだった（『シネマルーム25』未掲載）。フランスを代表する美人女優オドレイ・トトゥやメラニー・ロランが出演すると聞いて「こりゃ、本作は必見だ」と思ったが、『キネマ旬報』10月下旬号の「REVIEW 日本映画&外国映画」では星1つ、2つ、3つと評価が低い。そのため、鑑賞を少し躊躇したが・・・。

◆確かに画面は美しい。そして、本作の時代は19世紀末のフランスで、主人公たちは当時ブルジョワ階級と呼ばれた上流階級の人々。ベトナムは「ベトナム戦争」でアメリカと激しく戦ったが、その前に独立を目指して戦った相手はフランスだった。しかるに、ベトナム人のトラン監督がなぜこんな映画を？

私にはそれがサッパリわからない。本作はそんなフランス人のブルジョワ家庭を肯定したうえ、三代に渡る女性たちの営みを・・・。

◆女性たちの三代に渡る営みと言えば、中国の章子怡（チャン・ツイイー）が主演した『ジャスミンの花開く』（04年）が有名。同作は激動する1930年代・50年代・80年代という時代に翻弄される中で強く生き延びてきた女性像を描く名作だった（『シネマルーム17』192頁参照）。

しかし、本作では時代の激動は全く描かれず、あくまでブルジョワ階級の家庭・家族の事情ばかりに焦点が当てられているから、アレレ？これではいくら美しい映像の中で美しい娘たちが次々と子供を産んでいっても、それだけの物語に・・・。

◆子供たちが戦争で死んだり、病気で命を落としたり、或いは流産したり・・・。それは仕方がないが、本作に見るヴァランティーヌ（オドレイ・トトゥ）やマチルド（メラニー・ロラン）たちの妊娠・出産能力はそれをはるかに上回っていたらしい。本作当初の人間相

関図は次の通りだ。



しかしその後、これはまさに「ネズミ算」方式の如く大きく膨れ上がっていくから、ラストの現代版で紹介される孫やひ孫たちの数にはビックリ。しかし、こんな人生賛歌を謳歌できるのはごく一部のブルジョワ家庭だけであることは明白だから、ホントはそこに焦点を当てなければダメなのでは・・・。

2017（平成29）年10月13日記